

## 1. 調査報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4312810734
法人名	特定医療法人 ましき会
事業所名	益城病院 高齢者グループホームふるさと
所在地 (電話番号)	熊本県上益城郡益城町惣領1530 (電 話)096-286-3779
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと
所在地	熊本県熊本市上通町3-19-402
訪問調査日	平成19年5月2日

## 【情報提供票より】( 19年 2月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 3月 27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤 11人, 非常勤 2人, 常勤換算 6,1人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円		その他の経費(月額)	理美容代・オムツ代(実費)+10,500円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000円)		有りの場合 償却の有無	有(退去時)
食材料費	朝食	315円	昼食	368円
	夕食	368円	おやつ	(500/月)円
	または1日当たり円			

## (4)利用者の概要( 2月 1日現在)

利用者人数		18名	男性	0名	女性	18名
要介護1		4名		要介護2		5名
要介護3		5名		要介護4		4名
要介護5		0名		要支援2		0名
年齢	平均	84.4歳	最低	76歳	最高	98歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	・益城病院 ・日赤病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本市郊外の新興住宅街も隣接する法人施設は、関連各施設との協力連携体制が整えられている。介護計画はもとより、介護記録や各種の報告がPC上でホーム以外の全ての職員にも共有化されており、ホームでの入居者の暮らしや安全面を側面的に支援している。家族会との関係も、年間をとおした行事を企画し、個別の家族と入居者のケアプランについての意見交換も行われている。家族にとって安心できるばかりでなく、信頼できるホームづくりが行われている。職員も有資格者で構成され、研修体制も充実しており職員のモチベーションの高さがホームの質を高めているといえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	より家庭に近い生活環境を整えるために、事務所内のモニターカメラは夜勤体制のみの活用とし、玄関チャイムの音量調整や職員の制服の見直しなど、施設的な印象を与えないように改善されている。入居者の身体能力レベル低下に伴い、より安全な入浴のための浴室内手すりも設置するなど改善が行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人内での部署間研修は、職員相互の客観的な意見を改善に活かす取り組みとして行われており、自己評価も事業所及び個人単位で行われており、評価をサービスに活かす体制が充分整えられている。外部評価の結果に対しても、職員の共通課題として取り組み、検討・改善されていることが確認できる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域の福祉行政との連絡体制は独自に確立しており、電話連絡や面会は頻繁に行われている。運営推進会議は昨年度中に2度開催したものの、議題や進行において未だ定着しておらず今後の計画的な運営が期待される。今年度からは運営推進会議にも、行政職員の同席を希望している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や家族会の際に入居者の心身状況について報告すると共に、担当の職員からは電話連絡も行っている。また3ヶ月毎に「ふるさと便り」を発行し、ホームでの日常の様子も伝えている。家族会ではホームの運営についても意見を求め、法人全体による運営会議で検討しサービスの改善を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の催しに積極的に参加したり、ボランティアの受け入れも行っている。日常的には近所への挨拶や声かけなどにも努め、自然な形で隣人関係を構築しつつある。法人の主催行事や文化事業部との連携活動を通して、ホームの存在や認知症への理解促進に努めている。

## 2. 調査報告書

( ☐ 部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅰ. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	それまでの家庭生活に近い暮らしを支援するためのサービスが提供できるようなグループホーム理念及び年間目標をあわせて掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に職員は唱和することとし、具体的な目標と共に日常生活の中での支援を心がけている。運営推進会議や家族会の開催時には、ホームの理念について話す機会を設けている。		認知症高齢者に対する理解・啓発のための具体的な取り組みについて検討し、地域の中核施設として尽力されることが期待されます。
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の祭り見学で声を掛け合ったりホームでの行事へ招待したりしている。法人主催の行事をはじめ法人内の文化事業部とも連携した活動を通して、地域活動に多く参加する機会をつくっている。		ボランティア受け入れ等を通し、地域の人々とのお付き合いが日常的かつ継続的に行われるため、職員一人ひとりによる意識的な地域とのかがわりが望まれます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	法人内では、部署間の他職種相互研修を実施することで、客観的な気づきの機会を設けている。自己評価については事業所及び個人単位で行われ、評価をサービスに活かす体制が整備されている。外部評価に関しても、結果を真摯に受けとめ職員共通の課題として検討され改善していく姿勢や体制が確認できる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的実施しているものの、開始当初でもあり議題や進行等を模索中である。		地域の多方面からのメンバーを交えた会議の場では、意見の収集や協力を求めるためには、ホーム側からの議題提出に十分な準備を行う必要があると思われます。他のホームとの情報交換を行うことによって、会議内容の充実が望まれます。

益城病院高齢者グループホーム ふるさと

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現行では運営推進会議に行政職員の出席はなく、担当者とは事業所からの電話や面会を求めることで連携を図っている。今年度からの、行政職員の出席を強く依頼している現状である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会では個別に報告すると共に、担当の職員からは必要に応じて電話連絡等も行っている。年に1度は介護計画についての評価報告も意見交換する機会を設けている。また3ヶ月毎の「ふるさと便り」はホームでの暮らしの内容を伝えるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の年間予定は、日程調整等をしながら家族と一緒に作成し意見も求めている。法人内の運営会議ではグループホームの責任者も出席し、家族会からの意見を検討し改善するための仕組みもある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族との関係構築に配慮し、職員の異動は最小限に留めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には職員の経験年数に応じた研修プログラムが充実しており、職員の資格取得にも協力する体制が整っている。外部研修受講後はレポートを作成し回覧すると共に、毎月の会議でも報告し共有化を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内・郡内の研修会や同業者連絡会や近隣のグループホームとの交流をととしたホームの提供するサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者との関係作りは家族の協力を得ながら情報提供を求め、本人のペースを尊重しながらゆっくりと時間を掛けて行い、本人はもとより家族との関係構築を図るようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの得意事や趣味が活かせるような支援や環境整備に努め、様々な出番や自信を回復しながら支え合う関係作りを図っている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントや家族からの情報提供・日常生活からの情報を基に、一人ひとりに合わせた支援を心がけている。定期的に行うホームの全体会議では、職員間の情報共有に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直しを半年ごとに行なうために計画的なカンファレンスを実施、職員全員で課題の検討・担当者による仮プランを経て計画担当者がプランを完成させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の状況・状態の変化に応じて適宜プランの見直しを行っている。午後の申し送りには特に十分な時間を掛け、入居者の把握や共有化のための伝達を心がけている。必要な場合はプランの見直しを検討するようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症専門病院の機能や就労支援のための作業所や農場、文化事業部の機能活用など、法人のもつあらゆるサービスを受ける事ができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医の受診と法人内の併設病院からの往診で、入居者や家族に満足と安心を得られるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに事例がなく、今後その状況になることを前提にしたホーム内の体制の整備や、法人内での話し合いを検討中である。		法人代表者を含め職員との間でホームとしての基本方針(ハード面・ソフト面の双方)を確立した後、日頃から家族等への理解促進に努められる事が期待されます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いをはじめ法人内でのマニュアルが用意され、いつでも見ることが出来るようにしてある。特に入浴・排泄時の支援や居室を尋ねる際の対応では、礼儀や尊厳に配慮した支援を心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程や行事予定はあるものの、一人ひとりのペースを尊重した支援や関わり方に配慮している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見や季節の旬を取り入れた献立を管理栄養士が週単位で作成している。食事は職員も入居者と一緒にとっており、調理や後片付けは体調や気分・声かけによって参加を促している。		買い物の際の食材の選定や調理への参加をとおして、生活自立意欲と自信の回復を可能な限り支援することが望まれます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝から夕方まで、入居者の好きな時に入浴できるよう体制を整えている。夏は夜間シャワー浴も対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりがもつ以前からの趣味(踊り・唄・花の世話)や読書・テレビ視聴・散歩などを通して、出番や場面作りを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	嗜好品や日用品の買い物や散歩などで職員と一緒に外出している。法人内の就労センターへの買い出しは、散歩を兼ねて日課として行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の医療安全委員会研修に参加し、鍵をかけなくてもすむケアを実践している。職員は鍵を掛けることでの心理的な弊害についても学習している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人で作成した危機管理マニュアルに沿った対応できるようにしてある。年間計画を立て、利用者も一緒に夜間と昼間を想定した訓練が実施されている。		運営推進会議などを利用し、地域ぐるみの協力体制の確認や訓練の実施等も期待されます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養管理士の指導を取り入れている。個別入居者の体調・持病に応じた支援・管理も行われている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有部分では、花や季節のインテリアで季節感を感じられるよう配慮されている。少人数で快適に過ごす事ができる場所も整備され、装飾品も華美・幼稚にならず落ち着いた清潔な空間づくりがされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て、筆筒やソファ・使い慣れた寝具・愛読書・仏壇等が持ち込まれている。事情のある入居者の居室には、職員がその方らしい居室づくりを工夫してある。</p>		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（ 1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（ 88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	益城病院高齢者グループホームふるさと
（ユニット名）	Aユニット
所在地 （県・市町村名）	熊本県上益城郡益城町惣領1530
記入者名 （管理者）	田上晶子
記入日	平成 19年 4 月 1日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

( ☐ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グル - プホ - ム「ふるさと」独自の理念をつくり、理念に基づく介護サ - ビスを提供している。	理念に沿うような援助サ - ビスを提供出来るよう取り組む。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と意識付けのために、朝礼時には唱和を実施している。	理念の唱和を実践し、理念を念頭におき毎日の業務に当たる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットを役場や地域活動支援センタ - に置いたり、利用者家族に対し広報配布を実施している。	地域への働きかけを、今後とも力を入れ取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が気軽に立ち寄って頂けるよう、日頃から積極的に挨拶や声掛けを行っている。グル - プホ - ムで餅つきなどの行事の折りはお裾分けしている。	行事に限らず日頃からの関係づくりを積極的に働きかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設病院の行事参加に伴う地域活動へに参加、町内の祭りなどにも積極的に参加している。	地元のボランティアの方との交流を行っている。(漬け物づくり、饅頭作り、味噌、納豆作りなど)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	病院を通じての、介護支援サ - ビス状況などの情報を提供している。施設母体まじき会の文化事業部と一体的活動として、地域文化の昂揚と障害者への理解を深めるための活動を実施している。		法人全体としての取り組みに止まらず、グループホーム独自の地域貢献を目指したい。具体案は検討中
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の慣れによる弊を防ぎ、第三者の視点からの指摘は必要であり、評価の意義は充分理解し、改善に取り組んでいる。		指摘事項の趣旨を充分理解し改善につなげ、サ - ビスの向上を図る。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサ - ビス状況などの報告や話し合いなどを実践している。運営推進会議は2回開催したが、外部評価については、今回の受審結果を踏まえて19年度に予定している。		グループホームの理解はもとより、委員を通じ地域にも知ってもらえるような推進会議を計画。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話連絡や、こちらから出向くことが多い。その都度相談を行っている。		当法人が運営する認知症疾患センタ - 等を利用し積極的な連携を図れるようにする。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、顧問弁護士等による相談・勉強会・研修会など院内にて実施。現在一人活用している。		今後相談となる方のために、協力機関を通じ勉強会を行っていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内やグル - プホ - ム内、外部でも研修を受け学び虐待防止を徹底し、見過ごすことなくサ - ビスを徹底している。		虐待防止の徹底を職員全員が学び、利用者が安心して暮らせるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入所時の契約を交わす際には必ず、十分に重要事項説明を行い不明の点や疑問に対し、納得を頂いている。		入所時の不安を解消し、安心して納得頂くまで説明を行う。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	投書箱を設置しいつでも意見が出せるようにしているが、未だ不満等の苦情は寄せられていない。		意見が書きやすく出しやすいよう、投書箱の置き場所を検討する。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時や家族会などの折りに、また参加のない時には電話連絡にて近況報告を行っている。		個々に合わせた近況報告を行う。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつでも苦情対応可能であるが、未だ苦情等はない。		苦情がでないようサ - ビスに力を入れて、運営に反映する。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	スタッフ全体会を月一回設け、意見が出せるよう機会を作り反映させている。		いつでもスタッフの意見や提案が出来るような機会があり、職員意見の反映をする。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事や家族会など職員の確保に努めている、時には病院より応援態勢をとっている。		状況に応じた柔軟な勤務調整を実施、病院との連携を強化する。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動等も最小限に抑え、馴染みの関係を継続して支援を行いダメージは感じられない。		最小限の異動に押さえ利用者へのダメージを少なくした馴染みの関係をとる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内の新人育成研修プログラムに応じ研修を実施している。		院内研修の他GH独自の研修を取り入れ実施する。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県宅老所・グル－プホ－ム連絡会や上益城郡内のグル－プホ－ムと定期的に交流を持ち、意見交換や勉強会を実施し、サ－ビスの向上に繋げている。		近郊の他グル－プホ－ムとのネットワ－クを強化し、サ－ビスの向上に努める。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務の都合上全員参加は難しい状況ではあるが、院内の慰労会などに参加出来るよう配慮している。何でも言える環境作りに努めている。		職員旅行の実施、勤務希望の優先的な受け入れ、全体会を月に1回実施する。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	チャレンジシ－トを活用し、各自の目標を設定し向上心を反映している。		法人内の研修(ビジネスコンサルティング、パワ－アップ研修など)積極的に参加させる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居状況にもよるが、院内を経ての入居に際しては、一定の訓練を行い本人の不安や困っている事などを本人より聞き出せるよう働きかけ受け止めている。		ご家族との関係を講築する為、日頃から密に連絡をしたり、個々に応じた対応に努める。
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の折りは時間をかけ、家族の不安や求められていることに、聞く姿勢を崩さず受け止める努力をしている。		家族の不安や家族関係を考慮した上で、本人や家族とのより良い関係を作り上げる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が必要に応じた支援であるのかを見極め、必要とされている可能なサービス情報の提供を行い対応している。		相談内容が必要に応じた内容であるのか見極め、必要とされている可能なサービス情報の提供を行い対応する。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況に応じ試行をしたり、家族の協力を得て面会間隔を近くするなど慣れるまで時間をかけて対応する。他の入居者との関係作りも、本人のペースに合わせてゆっくり様子を見ながら対応する。		本人の状況に合わせ家族などの協力を得ながら対応し、慣れるまで時間をかけ他の入居者やスタッフの関係も安心できる環境を整える。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の力量に応じ出来る事への働きかけをし、職員と一緒に調理や掃除など生活を共にする事で、喜怒哀楽の感情を受け止めがで、支え合う関係作りをしている。		本人が興味を持っていることや、残存能力を活かせるよう働きかけを行い、本人の出来る事への喜びを職員も一緒に受け止める対応をする。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や日頃の家族との関係を密にすることで情報交換が出来る。時には家族の諸事情への聞き役になる事もある。本人を家族と一緒に支え合う関係作りに取り組んでいる。		疑似家族的な役割を担い、一緒に生活を共にして安心した暮らしが出来るよう働きかける。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族背景やこれまでの本人の歴史を十分にサ - チすることで、家族の気持ちを十本理解し、家族との関係がより良い状況で保てるよう配慮している。		家族の気持ちを十分理解し、家族との関係が継続するような働きかけをする。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会などの受け入れや、本人希望に応じ連絡などのサービスを提供している。		いつでも面会などの受け入れ、希望に応じた連絡などのサービスを提供する。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の状況に応じ、テーブルの座席や一緒に過ごし方などを考慮し、スタッフが関係作りの橋渡しとなる。台所仕事や入浴・外出など気の合う方同士で出来るような援助をする。		入居者の状況に応じ、お互いが支え合うような関係作りの橋渡しをすることで、より良い馴染みの関係を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が切れても様子伺うなど継続的に行う事で、ご家族もグル－プホ－ムへ立ち寄りやすい関係が出来ている。		契約が切れても、いつでも訪問したり、様子伺うなど関係が継続するよう働きかける。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いなどアセスメントし、ケアプランに挿入し、スタッフ全員が理解し対応している。		個々のケアプランを把握した、共通のケア対応を提供する。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人や家族からの情報により把握し、入居後に知り得ることなどアセスメント情報は、スタッフ間で共有し、ケアのサービスに繋げている。		入居時の本人や家族からの情報により把握し、入居後に知り得ることなどアセスメント情報は、スタッフ間で共有し、ケアサービスに繋げる。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各々能力に応じた過ごし方や、希望に応じて出来る事を援助支援する。精神的に落ち着かない状況にある人には、環境や気分転換などを図り、過ごし方の工夫をした支援の提供をしている。		各々の能力に応じた過ごし方や、希望に応じて出来る事を援助支援する。精神的に落ち着かない状況にある人には、環境や気分転換などを図り、過ごし方の工夫をした支援の提供をする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を十分理解し、スタッフ全員で課題となるものが何かを検討しプランを立てる。担当が中心となり、職員全員が本人が本人らしく生活できるよう援助している。		ケアプラン作成時に家族への参加を呼びかけ、一緒にプランを作る。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、本人の状況変化や必要に応じ、家族とも相談しながらプランの見直しを行っている。		本人の状況に応じた見直しが、家族や本人を交え出来るようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	様子や気づきなど、個別の生活記録を記入し、情報を共有することで入居者により良いサービスの提供を行っている。		個々日常の経過記録は院内電子カルテ内で記録し、院内職員やDrもいつでも把握できるよう管理している。
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	併設病院の利用者や家族に代わって要望に応じたり、病院の特性を生かしたものを活用し支援サービスを行っている。		院内の温室の花を楽しんだり、時には園芸を取り入れた活動を実施する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	地域のボランティアや民生委員などの受け入れを積極的に行う。文化的な面においては院内画廊の絵画・演奏会などに出かけ利用している。		益城病院内に美術ギャラリーを活用したり、ボランティアや教育機関との協力を密にしていく。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	必要に応じ対応するが、未だ具体化した事例はない。		本人・家族の意向や必要性に応じ対応する。
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	必要に応じ対応するが、未だ具体化した事例はない。		本人・家族の意向や必要性に応じ対応する。
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入所前からのかかりつけ医を、家族の協力の下定期的に受診がなされている。当グループホームでも月に一度主治医の往診を実施している。また、病変があるときには適宜受診対応を行っている。		入所前からのかかりつけ医を、家族の協力の下定期的な受診がなされている。主治医の往診の実施と、病変時の受診対応を協力病院と連携して支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	いつでも認知症の専門医との協力が得られる環境にある。		設立母体により専門医療や相談がいつでも可能である。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム内に看護職が常駐しており、健康管理や医療活用の支援を行っている。		グループホーム内の看護師や併設病院の外来職員などの協力体制が整っており、いつでも相談や連携がとれる状況にあり活用する。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合には、情報交換や相談を行うなどの連携を保っている。		母体病院に限らず入院時の情報交換が出来るよう連携を整える。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	未だその状況には至っていないが、重度化になることの前提は考え、家族の意向を聞き、スタッフ全員で方針の共有を行っている。		重度化になることを前提に考え、家族の意向や主治医との話し合いを含め、全員で方針の取り組みを行う。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の終末期はまだ経験はない。今後の状況変化に備えて検討を行っている。		重度や終末期を迎える事を予測しながら、今後の変化に備え準備を行う。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えるような状況や事例はないが、今後移り住むようなことがあれば、十分な話し合いや情報交換をするように準備している。		移り住む状況にあるときは、関係者の情報交換は密に行い、本人へのダメージを防ぐような配慮をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者ひとり一人の違いを尊重、礼儀や、本人の能力に応じた質問方法で対応している。個人情報の取り扱いも、院内研修に参加し、十分な配慮を行っている。		本人の尊厳を損なうことなく、配慮した言葉かけや対応、個人情報の取り扱いを心掛ける。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中に、本人が選択を出来る場面を多く設け、関わりを作っている。(入浴時間や、起床・就寝など)		自己選択が出来る場面を、もっと多く出来るよう場面作りに力を入れていく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を優先に取り入れ、ひとり一人のペースに合わせて関わりを持っている。		職員全員が入居者の思いを大切にした介護を提供する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者が全員女性で身だしなみや、おしゃれには一番興味があるため、本人が望むようなおしゃれの支援を行っている。顔の手入れ、白髪染め、カット、化粧など。希望に応じて行きつけの美容院を利用している。		入居者の要望や気分転換も兼ね備え、おしゃれに対する興味を忘れられないような支援を実践する。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の得意なことなどを見極め、出番作りを行っており、調理への参加を呼びかけたり、自主的な参加がある。食事の好みも把握しており、献立も検討している。一緒に食事をしながら、食べこぼしなどにはさりげなく対応している。		入居者の力量のある限り、一緒に楽しめるような出番をつくり食事を楽しめる工夫をしていく。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みに合わせ、ビールなどの要望に応じたり、好みに合わせたおやつなども提供している。		本人の好みに応じた飲み物の種類を多くし、本人が選べるような取り組みをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	入居者ひとり一人の排泄パターンを十分理解しており、気持ちの良い排泄が出来るようスタッフ全員が、連携して対応している。		個人の習慣・動きを見逃さずさりげなく自然な対応を目指し、気持ちよい排泄が出来る援助をする。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	本人の希望する時間に合わせて入浴の提供を行っている。また、入浴をゆっくり楽しめるような対応を行っている。		本人の希望を優先し、楽しめる入浴援助を行う。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	その人が望むような自由な休息をされている。介助を要する入居者には、状況に応じて休息が出来るよう配慮している。睡眠パターンを把握し眠れない入居者には、一日を通した生活リズムを取り入れ安眠対策に取り組んでいる。		本人の望む自由に安心できる休息や、睡眠パターンを把握し生活リズムの調整などの配慮した援助を職員全員が行う。
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	入居者ひとり一人が楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作りを行っている。(新聞取り、掃除、食事作り、食器洗い、洗面台磨き、花の世話、踊り、唄など)		入居者ひとり一人が楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作りを行う。日常の役割ごとや、入居者の誕生を家族と一緒に祝う機会が楽しみになるよう今まで以上に工夫をする。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	入居者の力量に応じお金の自己管理や、お金を自分で使えるよう支援を行っている。		入居者の力量に応じお金の自己管理や、お金を自分で使えるよう支援を行う。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	出来るだけ希望に添えるような援助を行っている。(散歩・買い物・ドライブなど)		出来る限り希望に添うような援助を実現する。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	入所前の自宅や、自宅周辺などに個別に出かける機会を作っている。家族の希望で面会旁々近隣に出かけられたり、家族会で一緒に出かける機会を作っている。		外出の機会を多く作り、利用者の希望を叶えるよう支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の力量で、電話希望がある時には電話をかける援助を行っている。知人や家族からの電話も取り次ぎ本人が話せるよう支援している。		本人の希望を取り入れることはもちろん可能な限り、手紙や電話連絡などの支援を行う。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に訪問でき、居心地良く過ごせる雰囲気を作っている。		顔馴染みのスタッフや利用者がある事で、いつでも気軽に訪問が出来居心地の良い雰囲気を心掛けた対応をする。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないということを、全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアの実践を行っている。		身体拘束は絶対しないケアを実践する。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な生活を支え、本人や家族に心理的圧迫感をもたらないよう、鍵を掛けなくてもすむような配慮をしている。		全ての職員は鍵を掛ける事のないケアを実践し、本人や家族に対し心理的な圧迫感を与えない配慮を継続的に行う。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の安全を確認するために、日中は玄関チャイムをつけ確認を行っている。夜間は目が届かないことから、廊下にカメラを設置しモニターで確認しているが、プライバシーには十分配慮して対応している。		入居者の安全を保持するため、玄関チャイムや固定カメラの設置をしているが、特に夜間はスタッフが少ない為、十分な対応を行う事を前提にプライバシーへの配慮をする。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物と思われる物品の保管は、目のつかないところに管理している。		入居者の状態に応じた安全管理を行う。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	院内医療安全委員会の研修を毎回受講をして学んでいる。事故や、ヒヤットしたことが生じた場合には、原因や対策を職員全員で考え対応を行い、事故の再発防止をしている。		院内医療安全委員会の研修を職員全員が受講し学んでいる。事故や、ヒヤットしたことが生じた場合には、原因や対策を職員全員で考え対策を行い、事故の再発防止を徹底する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応について勉強会を、定期的に受講して、対応に備えている。また、マニュアル化されている。		急変時の対応について勉強会を、定期的に受講して対応に備えている。職員全員が対応できるようマニュアル化する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	危機管理についてのマニュアルがあり、マニュアルに従い対応するよう身につけている。		危機管理についてのマニュアルがあり、マニュアルに従い対応するよう職員全員が身につける。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居契約時に起こり得るリスクは、家族に説明を行っている。また、入居者の状況に応じ、その都度、家族と一緒に対策や対応など検討している。		入居契約時に起こり得るリスクは、家族に説明を行っている。また、入居時の状況に応じ、その都度、家族と一緒に対策や対応など検討をする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行い、日頃の状態を把握している。体調の変化や異変を発見した時には、直ちに主治医に連絡が取れる状況にあるため、速やかな対応が出来る。		毎日の健康チェックを行い、日頃の序愈帯を把握している。体調の変化や異変を発見した時には、直ちに主治医に連絡が取れる状況にあるため、速やかな対応をする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は管理しており、症状の変化など観察を十分行っている。服薬間違いがないよう複数のスタッフで確認して服薬の支援を行っている。		服薬に関しては全スタッフが十分理解が出来、症状の変化など観察をし、Drとの相談がいつでも出来る状況にあり、安心した服薬支援が出来る。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、水分や食べ物(ヨーグルト・食物繊維)など摂取出来る工夫を行い、入居者個々に応じた運動を働きかけている。		便秘予防のため、水分や食べ物(ヨーグルト・食物繊維)など摂取出来る工夫を行い、入居者個々に応じた運動を働きかけをする。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		毎食後の歯磨き、うがいなど、個別に応じた歯磨き援助を実践し、口腔内の清潔保持をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもとひとり一人に応じた対応が出来る。		管理栄養士の指導のもと個々に応じた対応をする。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防は、院内にマニュアルや研修があり、感染予防対策を確実に実行している。		感染予防対策は、院内マニュアルや研修を受け、職員全員が感染予防対策を確実に実践する。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は当日使用の分は、当日に仕入れているため、新鮮な材料を使用している。調理用具などの衛生管理も、徹底して行っている。		食材は当日使用の分は、当日に仕入れて、新鮮な材料を使用する。調理器具は定期的に消毒を実施し衛生管理を徹底する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車で乗り入れ可能で、十分な広さがあり安全が確保されている。いつでも出入りが出来るよう門扉を開けている。		車で乗り入れ可能で、十分な広さがあり安全が確保されている。いつでも出入りが出来るよう門扉も開放している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や生活感が出るように、調度品を置いたり神棚をおいている。季節や行事にあわせた飾り付けをしている。(雛飾り、七夕など)音楽も馴染みの音楽を流しゆっくり過ごせるよう配慮している。		家庭的な雰囲気や生活感が出るように、調度品をおいたり神棚をおいている。季節や行事にあわせた飾り付けをしている。(雛飾り・七夕など)また、季節を感じられるような草花などをいけたり、耳障りにならない馴染みの唄を流し、くつろげるような雰囲気作りをする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でくつろいだり、居室側のベンチで過ごす事が出来るよう居場所の提供が出来る。特にベンチでは気のあった入居者同士でよく歌って過ごされる。		居間でくつろいだり、居室側のベンチで過ごす事が出来るよう居場所の提供が出来る。入居者同士がゆっくりくつろいだり、一人になれる空間を提供する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた家具や仏壇などを置かれ、好みのものを置き居心地の良い工夫をされている。家族の協力が無いところには、スタッフが提供している。		入居者の好みのものを置き、居心地の良い工夫をする。入居者の状況に応じたものを身近に置く工夫をする。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみが無いよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や、空調は常に点検をしており、不快感なく過ごせるよう努めている。温度調節も、利用者に合わせたり、状況に応じてこまめに対応している。		室温の調節・換気など不快感なく過ごせるよう、こまめに対応する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺りを設置している。浴室やトイレでも手摺りがあり安心して利用が出来る。浴槽内での滑り止めなど工夫を行っている。		個々の心身機能状況に対応できる安全な環境を提供する。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を見逃さず、自然な関わりができ、他の入居者との関係も悪化しないような配慮を行っている。日頃から環境整備を行い、保全を保っている。		個々の力量に応じて、混乱や失敗があっても自然な関わりを持ち、個人の力が引き出せる場面を多くする。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはくつろいで過ごせるようベンチを置いている。洗濯物を干していることから、生活感を感じてもらえる。外回りには、花や植木の水撒きをするなどの活動ができる。		ベランダはいつでも利用できたり、花や植木など楽しめるよう外回りの環境を整える。

## . サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設病院に認知症専門病棟があり、いつでも相談や・受診する事ができる安心したサービスが提供できる。食事は管理栄養士の指導のもと、高齢者に配慮した食事の提供がで

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（ 1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（ 88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	益城病院高齢者グループホームふるさと
（ユニット名）	Bユニット
所在地 （県・市町村名）	熊本県上益城郡益城町惣領1530
記入者名 （管理者）	田上晶子
記入日	平成 19年 4 月 1日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

( ☐ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グル - プホ - ム「ふるさと」独自の理念をつくり、理念に基づく介護サ - ビスを提供している。	理念に沿うような援助サ - ビスを提供出来るよう取り組む。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と意識付けのために、朝礼時には唱和を実施している。	理念の唱和を実践し、理念を念頭におき毎日の業務に当たる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットを役場や地域活動支援センタ - に置いたり、利用者家族に対し広報配布を実施している。	地域への働きかけを、今後とも力を入れ取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が気軽に立ち寄って頂けるよう、日頃から積極的に挨拶や声掛けを行っている。グル - プホ - ムで餅つきなどの行事の折りはお裾分けしている。	行事に限らず日頃からの関係づくりを積極的に働きかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	併設病院の行事参加に伴う地域活動へに参加、町内の祭りなどにも積極的に参加している。	地元のボランティアの方との交流を行っている。(漬け物づくり、饅頭作り、味噌、納豆作りなど)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	病院を通じての、介護支援サ - ビス状況などの情報を提供している。施設母体まじき会の文化事業部と一体的活動として、地域文化の昂揚と障害者への理解を深めるための活動を実施している。		法人全体としての取り組みに止まらず、グループホーム独自の地域貢献を目指したい。具体案は検討中
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃の慣れによる弊を防ぎ、第三者の視点からの指摘は必要であり、評価の意義は充分理解し、改善に取り組んでいる。		指摘事項の趣旨を充分理解し改善につなげ、サ - ビスの向上を図る。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサ - ビス状況などの報告や話し合いなどを実践している。運営推進会議は2回開催したが、外部評価については、今回の受審結果を踏まえて19年度に予定している。		グループホームの理解はもとより、委員を通じ地域にも知ってもらえるような推進会議を計画。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話連絡や、こちらから出向くことが多い。その都度相談を行っている。		当法人が運営する認知症疾患センタ - 等を利用し積極的な連携を図れるようにする。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、顧問弁護士等による相談・勉強会・研修会など院内にて実施。現在一人活用している。		今後相談となる方のために、協力機関を通じ勉強会を行っていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内やグル - プホ - ム内、外部でも研修を受け学び虐待防止を徹底し、見過ごすことなくサ - ビスを徹底している。		虐待防止の徹底を職員全員が学び、利用者が安心して暮らせるようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入所時の契約を交わす際には必ず、十分に重要事項説明を行い不明の点や疑問に対し、納得を頂いている。		入所時の不安を解消し、安心して納得頂くまで説明を行う。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	投書箱を設置しいつでも意見が出せるようにしているが、未だ不満等の苦情は寄せられていない。		意見が書きやすく出しやすいよう、投書箱の置き場所を検討する。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時や家族会などの折りに、また参加のない時には電話連絡にて近況報告を行っている。		個々に合わせた近況報告を行う。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	いつでも苦情対応可能であるが、未だ苦情等はない。		苦情がでないようサ - ビスに力を入れて、運営に反映する。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	スタッフ全体会を月一回設け、意見が出せるよう機会を作り反映させている。		いつでもスタッフの意見や提案が出来るような機会があり、職員意見の反映をする。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	行事や家族会など職員の確保に努めている、時には病院より応援態勢をとっている。		状況に応じた柔軟な勤務調整を実施、病院との連携を強化する。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動等も最小限に抑え、馴染みの関係を継続して支援を行いダメージは感じられない。		最小限の異動に押さえ利用者へのダメージを少なくした馴染みの関係をとる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内の新人育成研修プログラムに応じ研修を実施している。		院内研修の他GH独自の研修を取り入れ実施する。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県宅老所・グル－プホ－ム連絡会や上益城郡内のグル－プホ－ムと定期的に交流を持ち、意見交換や勉強会を実施し、サービスの向上に繋げている。		近郊の他グル－プホ－ムとのネットワークを強化し、サービスの向上に努める。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務の都合上全員参加は難しい状況ではあるが、院内の慰労会などに参加出来るよう配慮している。何でも言える環境作りに努めている。		職員旅行の実施、勤務希望の優先的な受け入れ、全体会を月に1回実施する。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	チャレンジシートを活用し、各自の目標を設定し向上心を反映している。		法人内の研修(ビジネスコンサルティング、パワーアップ研修など)積極的に参加させる。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居状況にもよるが、院内を経ての入居に際しては、一定の訓練を行い本人の不安や困っている事などを本人より聞き出せるよう働きかけ受け止めている。		ご家族との関係を構築する為、日頃から密に連絡をしたり、個々に応じた対応に努める。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の折りは時間をかけ、家族の不安や求められていることに、聞く姿勢を崩さず受け止める努力をしている。		家族の不安や家族関係を考慮した上で、本人や家族とのより良い関係を作り上げる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が必要に応じた支援であるのかを見極め、必要とされている可能なサービス情報の提供を行い対応している。		相談内容が必要に応じた内容であるのか見極め、必要とされている可能なサービス情報の提供を行い対応する。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況に応じ試行をしたり、家族の協力を得て面会間隔を近くするなど慣れるまで時間をかけて対応する。他の入居者との関係作りも、本人のペースに合わせてゆっくり様子を見ながら対応する。		本人の状況に合わせ家族などの協力を得ながら対応し、慣れるまで時間をかけ他の入居者やスタッフの関係も安心できる環境を整える。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の力量に応じ出来る事への働きかけをし、職員と一緒に調理や掃除など生活を共にする事で、喜怒哀楽の感情を受け止めがで、支え合う関係作りをしている。		本人が興味を持っていることや、残存能力を活かせるよう働きかけを行い、本人の出来る事への喜びを職員も一緒に受け止める対応をする。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や日頃の家族との関係を密にすることで情報交換が出来る。時には家族の諸事情への聞き役になる事もある。本人を家族と一緒に支え合う関係作りを取り組んでいる。		疑似家族的な役割を担い、一緒に生活を共にして安心した暮らしが出来るよう働きかける。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族背景やこれまでの本人の歴史を十分にサ - チすることで、家族の気持ちを十本理解し、家族との関係がより良い状況で保てるよう配慮している。		家族の気持ちを十分理解し、家族との関係が継続するような働きかけをする。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会などの受け入れや、本人希望に応じ連絡などのサービスを提供している。		いつでも面会などの受け入れ、希望に応じた連絡などのサービスを提供する。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の状況に応じ、テーブルの座席や一緒に過ごし方などを考慮し、スタッフが関係作りの橋渡しとなる。台所仕事や入浴・外出など気の合う方同士で出来るような援助をする。		入居者の状況に応じ、お互いが支え合うような関係作りの橋渡しをすることで、より良い馴染みの関係を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>契約が切れても様子伺うなど継続的に行う事で、ご家族もグル－プホ－ムへ立ち寄りやすい関係が出来ている。</p>		<p>契約が切れても、いつでも訪問したり、様子伺うなど関係が継続するよう働きかける。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向や思いなどアセスメントし、ケアプランに挿入し、スタッフ全員が理解し対応している。</p>		<p>個々のケアプランを把握した、共通のケア対応を提供する。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の本人や家族からの情報により把握し、入居後に知り得ることなどアセスメント情報は、スタッフ間で共有し、ケアのサービスに繋げている。</p>		<p>入居時の本人や家族からの情報により把握し、入居後に知り得ることなどアセスメント情報は、スタッフ間で共有し、ケアサービスに繋げる。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>各々能力に応じた過ごし方や、希望に応じて出来る事を援助支援する。精神的に落ち着かない状況にある人には、環境や気分転換などを図り、過ごし方の工夫をした支援の提供をしている。</p>		<p>各々の能力に応じた過ごし方や、希望に応じて出来る事を援助支援する。精神的に落ち着かない状況にある人には、環境や気分転換などを図り、過ごし方の工夫をした支援の提供をする。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向を十分理解し、スタッフ全員で課題となるものが何かを検討しプランを立てる。担当が中心となり、職員全員が本人が本人らしく生活できるよう援助している。</p>		<p>ケアプラン作成時に家族への参加を呼びかけ、一緒にプランを作る。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、本人の状況変化や必要に応じ、家族とも相談しながらプランの見直しを行っている。</p>		<p>本人の状況に応じた見直しが、家族や本人を交え出来るようにする。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	様子や気づきなど、個別の生活記録を記入し、情報を共有することで入居者により良いサービスの提供を行っている。		個々日常の経過記録は院内電子カルテ内で記録し、院内職員やDrもいつでも把握できるよう管理している。
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	併設病院の利用者や家族に代わって要望に応じたり、病院の特性を生かしたものを活用し支援サービスを行っている。		院内の温室の花を楽しんだり、時には園芸を取り入れた活動を実施する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	地域のボランティアや民生委員などの受け入れを積極的に行う。文化的な面においては院内画廊の絵画・演奏会などに出かけ利用している。		益城病院内に美術ギャラリーを活用したり、ボランティアや教育機関との協力を密にしていく。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	必要に応じ対応するが、未だ具体化した事例はない。		本人・家族の意向や必要性に応じ対応する。
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	必要に応じ対応するが、未だ具体化した事例はない。		本人・家族の意向や必要性に応じ対応する。
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入所前からのかかりつけ医を、家族の協力の下定期的に受診がなされている。当グループホームでも月に一度主治医の往診を実施している。また、病変があるときには適宜受診対応を行っている。		入所前からのかかりつけ医を、家族の協力の下定期的な受診がなされている。主治医の往診の実施と、病変時の受診対応を協力病院と連携して支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	いつでも認知症の専門医との協力が得られる環境にある。		設立母体により専門医療や相談がいつでも可能である。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム内に看護職が常駐しており、健康管理や医療活用の支援を行っている。		グループホーム内の看護師や併設病院の外来職員などの協力体制が整っており、いつでも相談や連携がとれる状況にあり活用する。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合には、情報交換や相談を行うなどの連携を保っている。		母体病院に限らず入院時の情報交換が出来るよう連携を整える。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	未だその状況には至っていないが、重度化になること的前提は考え、家族の意向を聞き、スタッフ全員で方針の共有を行っている。		重度化になることを前提に考え、家族の意向や主治医との話し合いを含め、全員で方針の取り組みを行う。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の終末期はまだ経験はない。今後の状況変化に備えて検討を行っている。		重度や終末期を迎える事を予測しながら、今後の変化に備え準備を行う。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えるような状況や事例はないが、今後移り住むようなことがあれば、十分な話し合いや情報交換をするように準備している。		移り住む状況にあるときは、関係者の情報交換は密に行い、本人へのダメージを防ぐような配慮をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者ひとり一人の違いを尊重、礼儀や、本人の能力に応じた質問方法で対応している。個人情報の取り扱いも、院内研修に参加し、十分な配慮を行っている。		本人の尊厳を損なうことなく、配慮した言葉かけや対応、個人情報の取り扱いを心掛ける。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中に、本人が選択を出来る場面を多く設け、関わりを作っている。(入浴時間や、起床・就寝など)		自己選択が出来る場面を、もっと多く出来るよう場面作りに力を入れていく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を優先に取り入れ、ひとり一人のペースに合わせて関わりを持っている。		職員全員が入居者の思いを大切にした介護を提供する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者が全員女性で身だしなみや、おしゃれには一番興味があるため、本人が望むようなおしゃれの支援を行っている。顔の手入れ、白髪染め、カット、化粧など。希望に応じて行きつけの美容院を利用している。		入居者の要望や気分転換も兼ね備え、おしゃれに対する興味を忘れられないような支援を実践する。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の得意なことなどを見極め、出番作りを行っており、調理への参加を呼びかけたり、自主的な参加がある。食事の好みも把握しており、献立も検討している。一緒に食事をしながら、食べこぼしなどにはさりげなく対応している。		入居者の力量のある限り、一緒に楽しめるような出番をつくり食事を楽しめる工夫をしていく。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みに合わせ、ビールなどの要望に応じたり、好みに合わせたおやつなども提供している。		本人の好みに応じた飲み物の種類を多くし、本人が選べるような取り組みをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	入居者ひとり一人の排泄パターンを十分理解しており、気持ちの良い排泄が出来るようスタッフ全員が、連携して対応している。		個人の習慣・動きを見逃さずさりげなく自然な対応を目指し、気持ちよい排泄が出来る援助をする。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	本人の希望する時間に合わせて入浴の提供を行っている。また、入浴をゆっくり楽しめるような対応を行っている。		本人の希望を優先し、楽しめる入浴援助を行う。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	その人が望むような自由な休息をされている。介助を要する入居者には、状況に応じて休息が出来るよう配慮している。睡眠パターンを把握し眠れない入居者には、一日を通した生活リズムを取り入れ安眠対策に取り組んでいる。		本人の望む自由に安心できる休息や、睡眠パターンを把握し生活リズムの調整などの配慮した援助を職員全員が行う。
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	入居者ひとり一人が楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作りを行っている。(新聞取り、掃除、食事作り、食器洗い、洗面台磨き、花の世話、踊り、唄など)		入居者ひとり一人が楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作りを行う。日常の役割ごとや、入居者の誕生を家族と一緒に祝う機会が楽しみになるよう今まで以上に工夫をする。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	入居者の力量に応じお金の自己管理や、お金を自分で使えるよう支援を行っている。		入居者の力量に応じお金の自己管理や、お金を自分で使えるよう支援を行う。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	出来るだけ希望に添えるような援助を行っている。(散歩・買い物・ドライブなど)		出来る限り希望に添うような援助を実現する。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	入所前の自宅や、自宅周辺などに個別に出かける機会を作っている。家族の希望で面会旁々近隣に出かけられたり、家族会で一緒に出かける機会を作っている。		外出の機会を多く作り、利用者の希望を叶えるよう支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の力量で、電話希望がある時には電話をかける援助を行っている。知人や家族からの電話も取り次ぎ本人が話せるよう支援している。		本人の希望を取り入れることはもちろん可能な限り、手紙や電話連絡などの支援を行う。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族が気軽に訪問でき、居心地良く過ごせる雰囲気を作っている。		顔馴染みのスタッフや利用者がある事で、いつでも気軽に訪問が出来居心地の良い雰囲気を心掛けた対応をする。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないということを、全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアの実践を行っている。		身体拘束は絶対しないケアを実践する。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な生活を支え、本人や家族に心理的圧迫感をもたらないよう、鍵を掛けなくてもすむような配慮をしている。		全ての職員は鍵を掛ける事のないケアを実践し、本人や家族に対し心理的な圧迫感を与えない配慮を継続的に行う。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の安全を確認するために、日中は玄関チャイムをつけ確認を行っている。夜間は目が届かないことから、廊下にカメラを設置しモニターで確認しているが、プライバシーには十分配慮して対応している。		入居者の安全を保持するため、玄関チャイムや固定カメラの設置をしているが、特に夜間はスタッフが少ない為、十分な対応を行う事を前提にプライバシーへの配慮をする。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物と思われる物品の保管は、目のつかないところに管理している。		入居者の状態に応じた安全管理を行う。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	院内医療安全委員会の研修を毎回受講をして学んでいる。事故や、ヒヤットしたことが生じた場合には、原因や対策を職員全員で考え対応を行い、事故の再発防止をしている。		院内医療安全委員会の研修を職員全員が受講し学んでいる。事故や、ヒヤットしたことが生じた場合には、原因や対策を職員全員で考え対策を行い、事故の再発防止を徹底する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応について勉強会を、定期的に受講して、対応に備えている。また、マニュアル化されている。		急変時の対応について勉強会を、定期的に受講して対応に備えている。職員全員が対応できるようマニュアル化する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	危機管理についてのマニュアルがあり、マニュアルに従い対応するよう身につけている。		危機管理についてのマニュアルがあり、マニュアルに従い対応するよう職員全員が身につける。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居契約時に起こり得るリスクは、家族に説明を行っている。また、入居者の状況に応じ、その都度、家族と一緒に対策や対応など検討している。		入居契約時に起こり得るリスクは、家族に説明を行っている。また、入居時の状況に応じ、その都度、家族と一緒に対策や対応など検討をする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックを行い、日頃の状態を把握している。体調の変化や異変を発見した時には、直ちに主治医に連絡が取れる状況にあるため、速やかな対応が出来る。		毎日の健康チェックを行い、日頃の序愈帯を把握している。体調の変化や異変を発見した時には、直ちに主治医に連絡が取れる状況にあるため、速やかな対応をする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は管理しており、症状の変化など観察を十分行っている。服薬間違いがないよう複数のスタッフで確認して服薬の支援を行っている。		服薬に関しては全スタッフが十分理解が出来、症状の変化など観察をし、Drとの相談がいつでも出来る状況にあり、安心した服薬支援が出来る。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、水分や食べ物(ヨーグルト・食物繊維)など摂取出来る工夫を行い、入居者個々に応じた運動を働きかけている。		便秘予防のため、水分や食べ物(ヨーグルト・食物繊維)など摂取出来る工夫を行い、入居者個々に応じた運動を働きかけをする。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		毎食後の歯磨き、うがいなど、個別に応じた歯磨き援助を実践し、口腔内の清潔保持をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもとひとり一人に応じた対応が出来る。		管理栄養士の指導のもと個々に応じた対応をする。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防は、院内にマニュアルや研修があり、感染予防対策を確実に実行している。		感染予防対策は、院内マニュアルや研修を受け、職員全員が感染予防対策を確実に実践する。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は当日使用の分は、当日に仕入れているため、新鮮な材料を使用している。調理用具などの衛生管理も、徹底して行っている。		食材は当日使用の分は、当日に仕入れて、新鮮な材料を使用する。調理器具は定期的に消毒を実施し衛生管理を徹底する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車で乗り入れ可能で、十分な広さがあり安全が確保されている。いつでも出入りが出来るよう門扉を開けている。		車で乗り入れ可能で、十分な広さがあり安全が確保されている。いつでも出入りが出来るよう門扉も開放している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気や生活感が出るように、調度品を置いたり神棚をおいている。季節や行事にあわせた飾り付けをしている。(雛飾り、七夕など)音楽も馴染みの音楽を流しゆっくり過ごせるよう配慮している。		家庭的な雰囲気や生活感が出るように、調度品をおいたり神棚をおいている。季節や行事にあわせた飾り付けをしている。(雛飾り・七夕など)また、季節を感じられるような草花などをいけたり、耳障りにならない馴染みの唄を流し、くつろげるような雰囲気作りをする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でくつろいだり、居室側のベンチで過ごす事が出来るよう居場所の提供が出来る。特にベンチでは気のあった入居者同士でよく歌って過ごされる。		居間でくつろいだり、居室側のベンチで過ごす事が出来るよう居場所の提供が出来る。入居者同士がゆっくりくつろいだり、一人になれる空間を提供する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた家具や仏壇などを置かれ、好みのものを置き居心地の良い工夫をされている。家族の協力が無いところには、スタッフが提供している。		入居者の好みのものを置き、居心地の良い工夫をする。入居者の状況に応じたものを身近に置く工夫をする。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や、空調は常に点検をしており、不快感なく過ごせるよう努めている。温度調節も、利用者に合わせたり、状況に応じてこまめに対応している。		室温の調節・換気など不快感なく過ごせるよう、こまめに対応する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺りを設置している。浴室やトイレでも手摺りがあり安心して利用が出来る。浴槽内での滑り止めなど工夫を行っている。		個々の心身機能状況に対応できる安全な環境を提供する。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を見逃さず、自然な関わりができ、他の入居者との関係も悪化しないような配慮を行っている。日頃から環境整備を行い、保全を保っている。		個々の力量に応じて、混乱や失敗があっても自然な関わりを持ち、個人の力が引き出せる場面を多くする。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはくつろいで過ごせるようベンチを置いている。洗濯物を干していることから、生活感を感じてもらえる。外回りには、花や植木の水撒きをするなどの活動ができる。		ベランダはいつでも利用できたり、花や植木など楽しめるよう外回りの環境を整える。

## . サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設病院に認知症専門病棟があり、いつでも相談や・受診する事ができる安心したサービスが提供できる。食事は管理栄養士の指導のもと、高齢者に配慮した食事の提供がで